

平成24年度決算特別委員会速記録 (第7号)

平成25年10月8日(火) 午後1時開会

場 所 第3・4委員会室

○委員長(風見利男君) これより歳出第8款教育費の質疑を行います。

初めに、錦織委員。

○委員(錦織淳二君) 教育費は、まず、ヒューマン・コミュニケーション公開講座についてお伺いいたします。

平成25年度予算特別委員会において、教育費で、「教育における講話の活用について」私が質疑をさせていただいた際に、鳥取大学医学部高塚准教授によるヒューマン・コミュニケーション講座の導入をお願いしたところ、8月5日に御成門小学校体育館において、教育委員会、教育長、教育委員会事務局次長、小・中学校の校長・教職員・幼稚園の園長・保育園の保育士・PTA・保護者、民生・児童委員、区議会議員及び文部科学省道徳教育の充実に関する懇談会の委員もお迎えし、計132名を対象にした高塚先生の公開講座を実施していただきましたが、受講者の感想はいかがでしたでしょうか。

○指導室長(平田英司君) ヒューマン・コミュニケーション公開講座は、今年度から区長部局と一体となって進めているいじめセーフティネットコミュニティ事業の一環として開催いたしました。これまでの講演会や研修会とは違い、演習が多く、最初は戸惑う参加者も多かったのですが、改めてコミュニケーションの重要性について考えるよいきっかけになった、あるいは他者との違いを受容することの大切さについて改めて学ぶことができたなど、感想が多数寄せられているところでございます。

○委員(錦織淳二君) 私自身、参加者全員が常に動き回るという、ほかでは経験できない力強いすばらしい講座に感動しましたが、私のほうにも都合で参加できなかった方や、今回の通知が来なかった方から次回開催予定の問い合わせが多く、開催する日時が決まり次第、教育委員会事務局の方からご連絡させていただき旨をお伝えしております。教育委員会として、この講座の継続をどのようにお考えでしょうか。

○指導室長(平田英司君) 子どもたちのコミュニケーション能力が不足していると言われる現代社会において、今年度は、まず大人自身が自分を見つめ、体験から気づき、学び合うことを目的に、ヒューマン・コミュニケーション講座を開催いたしました。次年度以降につきましては、さらに実態に即した狙いや内容となるよう精査し、開催方法について検討してまいります。

○委員（錦織淳二君） ありがとうございます。初回の講座は、夏休み中ということもあり、肝心な児童の参加ができませんでしたが、児童向けの講座はさらに感動的なすばらしい内容になっています。

私は、昨年6月に他区で行われた小学校5・6年生、教育委員会、教職員、PTA、保護者を対象にした高塚先生の公開講座に参加させていただきましたが、生徒向けの講座において、入学以来先生に口を開かなかった5年生の男子児童が、講座終了後、ニコニコしながら担当の教師に話しかけてVサインまでしたので、担当の教師だけではなく、ほかの先生までが感動の余り泣き出したのを目の当たりにし、港区でもこのすばらしい講座を取り入れたいと思った次第です。

いずれにいたしましても、ヒューマン・コミュニケーション講座は、自分の命を大切にし、自分と周囲にいる人を大切に思う気持ちを育むための学習で、同時にボランティアスピリッツを養っていくというもので、自死やいじめ問題はもちろんのこと、今後ますます少子高齢化になっていく社会を支えるためには、必要欠くべからざる教育だと思っておりますので、ぜひよろしく願います。

ところで、これだけ区民の皆様から感謝され、かつ継続を期待されている講座をされた講師の方に対して、交通費及び宿泊費の支給ができなかったという現実があります。高塚先生の場合は、翌日に都内の某大学で講義される日程になっていたため、お願いして1日早く上京していただき、今回の公開講座をしていただいたというご好意に甘えた経緯がございます。今回、先生に支払われた謝礼金にしても、交通費の実費にもなっていないというのが現状で、今回そのような状況になったのはどのような理由からでしょうか。また、講座の準備を周到にして、講師の方の負担を減らすことができるように努力してもらえませんか。

○指導室長（平田英司君） 委員の積極的な働きかけもいただき、高塚先生の講座開催が実現いたしました。予算要求の時点では、本事業に講師を遠方からお招きすることを予定しておりませんでした。そのため、その経費を予算化できておりませんでした。また、講師の先生の負担を減らすことについては、事業の内容や必要性を十分検討するとともに、必要な経費については関係部署ともよく協議し、予算化できるよう努めてまいります。

○委員（錦織淳二君） ぜひよろしく願います。

次に、平成23年度から平成25年度までの3年間の講演、公開講座における講師への謝礼金及び、同じく3年間のパソコン、プリンター、電子黒板その他ハード購入に関する購入実績を教えてください。

○指導室長（平田英司君） 平成23年度から平成25年度までの3年間の講演、公開授業における講師への謝礼金につきましては、延べ130名で合計151万1,000円となります。

○学務課長（佐藤雅志君） パソコン、プリンター、電子黒板等の機器の購入実績は、平成23

年度が2,911万7,760円、平成24年度5,645万3,313円、平成25年度は9,613万3,007円で、3年間の合計では1億8,170万4,080円となっております。

○委員（錦織淳二君） ありがとうございます。あくまでも講演や講座と機器だけの比較で、極端かもしれませんが、それにしても、PCとハードウェアの3年間の購入額が1億8,170万4,080円に対して、同じく3年間に実施した講演会等にかかわるソフトウェアの費用はたったの151万1,000円です。本日は教育委員会の方々もいらしていますが、このハードとソフトの面に対する費用の比較をどのように思われますでしょうか。

平成25年度予算特別委員会における教育費の質疑において、私は講話教育の重要性やアジアヘッドクォーター特区を目指す港区としての方向性を訴えましたが、ハードは時間がたてば古くなって、そのうち使い物にならなくなって捨ててしまいます。それに比べて、ソフトはどんどん広がりを見せて、いずれ何倍にもなって港区に戻ってきます。ところが、情報社会と言われる現在でも、日本人は目に見えないものにはお金をかけたがらないようで、今回の小・中学校等における講演の際、お迎えした講師の方にお支払いする費用についても同じことが言えるのではないのでしょうか。

2020年に東京オリンピック・パラリンピック開催が決定した今、教育においてもグローバル社会に合ったものに変えていく千載一遇のチャンスです。講演会や講座においても海外から講師を招聘する必要がある可能性も十分に考えられます。そのためにも講演会や講座の内容をよく吟味し、必要な経費を獲得できるように関係部署とよく協議し、予算化していただくことを要望いたします。

最後に、小・中学生の海外派遣についてお伺いいたします。区では、平成19年度から毎年、小・中学生をオーストラリアに海外派遣され、今年度、小学生36名がメルボルン市・シドニー市に9日間、中学生44名がパース市に10日間で、決算額が4,728万5,525円になっています。昨年の第1回定例会における私の一般質問で、せっかくオーストラリアを選択したのなら、アボリジニの征服・迫害から始まった白豪主義や、日本とオーストラリアの南太平洋における戦争の歴史はもちろんのこと、捕鯨の問題も日豪の小・中学生間でディベートをさせるチャンスであり、よい悪いではなく、相互のマイナス部分も知り、歴史の真実を知ることが本当の国際理解につながる旨を訴えたところ、当時の教育長から、「オーストラリアと日本の互いの歴史や社会問題について、子どもたち同士でディベートの機会等を設けてコミュニケーションを図ることは有意義なので、今後、現地校の意向を踏まえながら、研究してまいります」との答弁がありましたが、この件に関し、その後いかがされましたでしょうか。

○指導室長（平田英司君） オーストラリアの歴史等については、事前・事後の研修で学習しておりますが、英語でのコミュニケーション能力を含め、現地でディベートを行うまでには高ま

っておりません。今後、相手校の意向を踏まえつつ、授業の中でどのようなプログラムを組むことができるか、さらに研究を深めてまいります。

○委員（錦織淳二君） 本格的なディベートを期待したのではなく、まずは準備のための勉強に対する取り組みと、何といたっても英語で自分の考えを何度も発言していく度胸を持たせることが必要なので、たどたどしい英語で十分ではないでしょうか。

先般、原爆や戦争の悲惨さを書いた漫画『はだしのゲン』に対する松江市教育委員会の対応が問題視され、最終的には閲覧制限を撤回するという結果になりました。確かに子どもたちが残酷さに恐怖を覚えるかもしれませんが、戦争の残酷さはあのような生易しいものではなく、漫画の表現をはるかに超えるものです。それを忠実に伝えなかったら真の平和教育などできるわけがありません。過激過ぎると逃げていては教育というものの的を外してしまいます。

オーストラリアと日本の歴史や国際問題においても、子どもたちに真実を伝え、教えるのではなく、子どもたち自身に学ばせていただきたいと思います。

ところで、児童・生徒数が増えているのに、海外派遣者数が変わらないようですが、今後どのようにされるのかお教えてください。

○指導室長（平田英司君） 人数は、小学校6年生では各学級1名、中学校2年生では各学級2名の代表を選抜しております。各学校の代表として派遣し、9月の報告会でその成果を広く区民に周知するとともに、それぞれの学校においても、次に続く学年に向けて発信していくことを狙いとしております。今後、学級の増加に合わせて派遣者の数も増えてまいりますので、さらに内容が充実していくよう体制を整えてまいります。

○委員（錦織淳二君） 私は、かつて英語を話せて国際的に活躍できることがグローバル人材だと思っていました。しかし、海外で仕事をし、生活をしたときに、それだけではないことに初めて気がつきました。世界中の国や民族には独自の習慣・文化があり、歴史があります。それらを大切に、世界の人々と接していくことが、英語以上にグローバル人材に求められている資質だと実感した次第です。

感性豊かな小・中学生が、日本語が通じないホームステイ先で1週間生活をすれば、ものの見方・考え方が変わると同時に、視野が広がり、将来への夢が大きく膨らむことでしょう。ぜひ一人でも多くの小・中学生が海外に行けるよう、海外派遣の規定を改定していただけることを願って、質問を終わります。ありがとうございました。

○委員長（風見利男君） 錦織委員の発言は終わりました。

.....